

森田信義編著

### 『説明的文章の研究と実践—達成水準の検討—』

本書は、森田信義氏が前に刊行した「説明的文章教材の実践研究文献目録（一九六五年一月～一九八四年二月）」（淡水社）

の作業にもとづき、「説明的文章教材の学習指導を検討し、これまでの達成水準とこれからの課題を明らかにしようとしたもの」である。本書は、森田氏を中心とする

国語教育研究会（「西風会」）の一年半以上にあぶ共同研究の成果として刊行されている。

その内容は、「Ⅰ説明的文章指導の現状と課題」Ⅱ説明的文章教材の研究と実践・達成水準」「Ⅲ説明的文章教材・実践研究文献リスト（一九八四年三月以降のもの、

および前出の「文献目録」の補足分）  
「IV教科書所収教材一覧（小学校は一九八六年度版、中学校は一九八七年度版における説明的文章教材）」から構成されている。

「I」は、「II」での考察の観点を規定したもので、森田氏の執筆になっている。森田氏は、前に刊行した「認識主体を育てる説明的文章の指導」（漢水社）で展開した理論にもとづき、次のように述べている。説明的文章とは、「論理的認識の文章」であるとし、その特性を「筆者が何らかの対象について、論理的認識を支えにしながら、本質を解明し、説明し、主張するものである」ととらえ、説明的文章の指導のわらいを「情報Ⅱ内容」が筆者のどのような「立場」から生み立され、どのような「論理構造」を築き上げ、どのように「文章化」されているかを総合的に読み取ること」だと規定している。この規定は、森田氏が「読みの機構」に着眼することから導き出されたものであるが、この着眼から教材研究や指導過程のあり方についても「A内容・ことからの追求（第一層）」

「B論理的展開・表現の追求（第二層）」  
「C筆者（像）の追求（第三層）」の三段階を区分し、第三層の読みによって第一層・第二層の読みが厳密で確かなものとして統合されるとしている。森田氏は、教材研究者が自覚的な読者として、子どもに先立って、それらの読みを体験しておくことを根本においている。

「II」は、「I」の森田氏の規定にもとづいて、各学年ごとに、小・中学校の代表的な教材や最新の教材を二、三とりあげ、「1教材の特色」「2実践事例の検討」「3今後の課題」という点から、調査・分析・考察が精細かつ具体的になされている。執筆者は、森田氏以外に陣内有司・丹孝子・玉木雅己・神田綾子・種谷克彦の五氏で、日々実践に取り組まれている方々である。とくに、「2」で各氏の三層の読みが提示されている点は本書の特色をなしている。

筆者の認識・表現の過程を追求し、筆者像へと収斂していくという視点に貫かれた説明的文章指導のあり方は、「内容」主義でもなければ、「形式」を読みとる「技

能」主義でもない、学習者の読みの個性を中核にすえたことばの教育を確立しようとするもので、従来の一般的な指導に変革を迫るものである。

（A5判、四七五ページ、一九八八年二月初版、明治図書刊）

（田中 俊弥）